

日本福祉介護情報学会

第16回 研究大会プログラム

大会テーマ

地域における包括的支援推進に向けた
個人情報活用のこれまでとこれから
～個人情報保護法改正を見据えて～

会場：田園調布学園大学 4号館 4階

日時：2015年11月29日（日）

10時00分 ～ 17時00分

主催：日本福祉介護情報学会

開催校：田園調布学園大学

1 大会趣旨

2003年に個人情報保護法が制定され、個人情報の有用性に配慮しつつ個人の権利利益の保護が目的とされましたが、社会全般においては法の趣旨とは異なる誤解が広がり、個人情報の利用・活用を控えてしまう過剰反応が多くのある場面で見受けられています。福祉・介護分野においては、取り扱う情報のほとんどがプライバシー情報かつセンシティブ（機微）な情報を含むため、さらなる過剰反応が見られる状況です。

本学会ではこの問題に対応するため、これまでも学習会や研究大会を通じて、本法律の目的が「個人の権利利益の保護」と「個人情報の有用性」のバランスを図るものであることを確認し、福祉・介護分野における個人情報の活用方法について研究を深めてきました。

このような中、2015年9月3日に個人情報保護法改正案が成立し、要配慮個人情報に関する規定整備の必要性、匿名加工情報に関する加工方法や取り扱い等の規定整備の必要性、第三者提供時の記録義務、利用目的の変更を可能とする規定の整備の必要性、取り扱う個人情報により識別される個人の数が5,000以下の事業者の適用除外の廃止などが示されました。これにより、今後は小規模事業所にも個人情報保護法が適用されることとなり、インフォーマルサポートや医療連携を組み込んだ地域包括ケアシステムなどへの様々な影響が考えられます。

一方、附則の第十一条には「個人情報保護委員会は、新個人情報保護法第八条に規定する事業者等が講ずべき措置の適切かつ有効な実施を図るための指針を策定するに当たっては、この法律の施行により旧個人情報保護法第二条第三項第五号に掲げる者が新たに個人情報取扱事業者となることに鑑み、特に小規模の事業者の事業活動が円滑に行われるよう配慮するものとする。」と示されており、小規模事業者の事業活動が円滑に行われるための配慮が行われることにもなっています。

本研究大会では、法改正後においても地域において福祉情報（個人情報を含む）を適切かつ積極的に活用していくためには、何が必要で、何に気を付けなければならないのか、そして小規模事業者などは何に配慮されなければならないのかについて、様々な分野（国、地方自治体、企業、NPO、地域住民など）の実践者をシンポジストに迎え、福祉情報の活用のこれまでと、これからに向けて研究協議することを目的とします。多くの会員の皆様が参加し、活発な議論となることを期待しています。

2 テーマ

地域における包括的支援推進に向けた個人情報活用のこれまでとこれから
～個人情報保護法改正を見据えて～

3 主催

日本福祉介護情報学会

4 開催校

田園調布学園大学

5 日時

2015年11月29日（日） 10時00分～17時00分

6 会場

田園調布学園大学 主会場：441 教室（4号館4階）

自由研究発表会場：442 教室、443 教室（4号館4階）

〒215-8542 神奈川県川崎市麻生区東百合丘3-4-1

会場問い合わせ先：044-966-9211（代表）

<http://www.dcu.ac.jp> （ホームページ）

<http://www.dcu.ac.jp/access/> （アクセスマップ）

《 プ ロ グ ラ ム 》

9 : 30 ~ 受付開始

10 : 00 ~ 12 : 05 自由研究発表

自由研究発表 A会場(443 教室)

1 10:00~10:25

公助による介護サービスへの ICT を利活用した情報提供の考察
— 埼玉県和光市の事例から —
○発表者 田井義人(摂南大学)

2 10:25~10:50

自己発信率による異変把握の可能性検証
— 能動的な安否確認システムにおける 4 年半の取り組みから —
○発表者 齋藤建児(東北公益文科大学)

3 10:50~11:15

タブレットを活用した民間事業者による見守りと生活支援サービスの一体化
○発表者 小川晃子(岩手県立大学)

4 11:15~11:40

福祉サービスの情報活用における本人「同意」について
○発表者 飯村史恵(立教大学)

自由研究発表 B会場(442 教室)

1 10:00~10:25

鉄道事業者における、障害者割引運賃のホームページ掲載状況を検討する。
○発表者 井上俊孝(西九州大学健康福祉学部スポーツ健康福祉学科)

2 10:25~10:50

障がい者・高齢者等多くの者に学習機会の拡張をもたらす e-ラーニングシステムの課題と運営上の利点
— 滋賀大学 e-ラーニングシステム・SULMS 運用事例を参考にして —
○発表者 庄司一也(滋賀大学)

3 10:50~11:15

社会福祉実習の定量的把握のための試行
○発表者 大原ゆい(京都府立大学)

4 11:15~11:40

特別養護老人ホームにおける利用者支援向上のためのケアワーク記録の活用に影響を与えている要因に関する研究(2014 年度 研究・実践企画奨励助成研究報告)
○発表者 北館一弥(東京福祉大学大学院)

11 : 40 ~ 13 : 00 昼食

13 : 00 ~ 13 : 30 学会総会 441 教室 (講堂)

13 : 30 ~ 13 : 40 休憩

13:40～13:50 開会挨拶（日本福祉介護情報学会代表理事 高橋 紘士氏）

13:50～17:00 **シンポジウム** 441 教室（講堂） ※途中休憩あり

**【テーマ】 地域における包括的支援推進に向けた個人情報活用のこれまでとこれから
～個人情報保護法改正を見据えて～**

【シンポジスト】

- ・「全国の地域包括ケアにおける各種情報の効果的な利活用例(仮)」

厚生労働省老健局振興課 課長補佐 川部 勝一氏

- ・「笠間市における地域包括ケアシステム構築への取り組み(介護健診ネットワークについて)」

笠間市市長公室 企画政策課 課長 後藤 弘樹氏

- ・「高齢者向けタブレット等を活用した実証実験について」

日本郵便株式会社 トータル生活サポート事業室 室長 西嶋 ^{ゆたか} 優氏

- ・「民生委員・児童委員と個人情報」

社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 民生児童委員部長 荻野 剛氏
(東京都民生児童委員連合会 事務局)

- ・「地域とのつながりを核にした介護事業と地域活動における個人情報」

NPO 法人 楽 代表理事 柴田 範子氏

【コーディネーター】 村井 祐一氏(田園調布学園大学・学会副代表理事)

【コメンテーター】 森本 佳樹氏(立教大学・学会副代表理事)

17:00～ 次回研究大会について

17:30～ 懇親会 フェスタ・ピアッツア(Festa Piazza)

神奈川県川崎市宮前区潮見台 8-8 アクトビル 1F 044-975-4838

